

図画工作科 年間指導計画 再編成の方法

①今後の図画工作科の授業時数を確認する。

②題材の領域や項目、指導事項、育成を目指す資質・能力の確認する。

○4～6月で学習ができなかった題材と、領域や項目、指導事項、育成を目指す資質・能力が同じ題材が、今後実施予定の題材の中にあるかを確認し、年間指導計画の中で「学習する題材」「取り扱わない題材」「時間数を減らして学習する題材」等に分類、調整する。

【調整の視点】

- ・領域や項目、指導事項（「造形遊び」「絵・立体に表す」「工作に表す」「鑑賞」に着目）の題材数の比率、バランスは適当か。
- ・感染症予防の視点で活動を確認し、実施可能な題材か。
- ・カリ・マネ要領や、学習指導要領解説「2内容の取扱いと指導上の配慮事項」に記載されている材料や用具を使用した題材が配列されているか。

◇材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。

ア 第1学年及び2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いること。

イ 第3学年及び大4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いること。

ウ 第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを用いること。

（「横浜市立学校カリキュラム・マネジメント要領 図画工作科・美術科編」P.48より）

③学習する題材と時間数が決まったら、題材の配列する。

【視点】

- ・題材の内容や校外外の行事と指導時期の関係、季節は適当か。
- ・用具や材料に着目し、題材の学習順が適当か。
- ・感染症予防の視点で、造形遊び、共同して作りだす活動等の実施時期は適当か。（本指導計画例では、造形遊びは9月後半以降に配列した）